

匂いを嗅ぎまわる一生

人間は目に見えるものに注目するが、多くの昆虫は匂いを使って世界を見渡している。人間と違い、蝶では大切な化学物質を探知する受容体は触角、大あご、そして脚にさえもあります!多様な受容体は彼らの環境の匂いを嗅ぎ、味見するのに使われます。これらのツールで、彼ら(昆虫)は化学的情報を使い食草と交尾相手を選ぶことが出来ます。

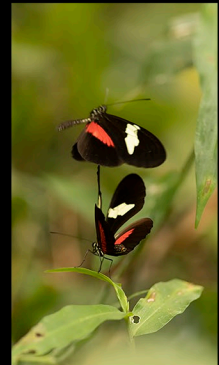
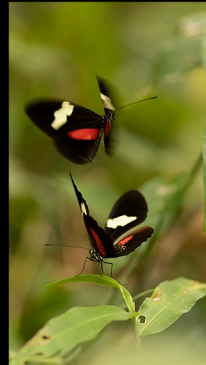
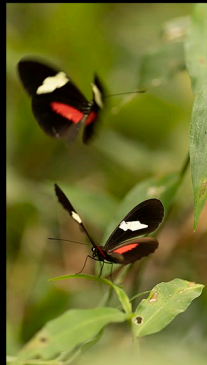
食草探し

多くの蝶はどこに自分の卵を産むかという事にとてもうるさいです。例えば、ドクチョウのメスはトケイソウにしか卵を産みません。彼女らは注意深く産卵場所と成り得る場所を視覚とそしてその後、脚によるドラミングで検査します。彼女の前脚にある特別な感覚器官が植物をの味を感じて適しているかの検査を可能にしています。

交尾相手の選択

蝶は求愛行動の中で匂いを使って交尾相手の査定をすることが出来ます。性別、年齢、そして交尾ステータスを含む情報が化学的に伝えられます。蝶の触角にある受容体が他個体の化学物質を探知して信号を脳へ送り、処理されます。

香水。 オスの蝶は翅にある腺で蓄えられている誘引剤を作り出します。求愛中、オスはメスの上を飛び、翅を揺らしてフェロモンをメスの触角に放出します。メスは香水を生み出さないオスとは交尾しません。



忌避剤。 オスの蝶は交尾器に蓄えている忌避物質を生産します。これらはなわばりをマークして守ったり、もしくは抗媚薬で交尾したメスをより非魅力的にするのに使われます。